

各関係機関団体の長 }  
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第11号

定植後のイチゴの防除対策（炭疽病・ハダニ類）について

9月5半旬調査の本ほ定植後のイチゴでは、定植前の防除、罹病苗の処分、摘葉等が徹底されたため、育苗期終盤の9月2半旬調査よりも炭疽病、ハダニ類の発生量は減少しました。

しかし、炭疽病については依然として発生量が多いほ場があり、また、炭疽病、ハダニ類とも例年、ビニル被覆後に発生量が増加します。現在、発生量が少ないほ場でも、防除対策を怠らないように注意喚起をお願いします。

- 1 対象作物名：イチゴ
- 2 病虫害名：炭疽病、ハダニ類
- 3 発生状況

<炭疽病>

9月5半旬の巡回調査の結果、定植後の炭疽病の発生量は、9月2半旬の育苗期の調査時から大幅に減少していたが、依然として平年より多かった（図1）。

- ・発病株率（9月5半旬） **0.20%**（平年 0.10%、前年 0.18%）
- ・発病苗率（9月2半旬） **1.10%**（平年 0.15%、前年 0.05%）

<ハダニ類>

定植後のハダニ類の発生量は、9月2半旬の育苗期の調査時から大幅に減少し、前年より多いものの、ほぼ平年並であった（図2）。

- ・寄生株率（9月5半旬） **2.6%**（平年 2.4%、前年 1.3%）
- ・寄生苗率（9月2半旬） **13.5%**（平年 8.2%、前年 5.8%）

表1 調査地点ごとの炭疽病・ハダニ類の発生状況

調査地点	炭疽病発病株率 (%)	ハダニ類寄生株率 (%)
A	0	2
B	0	0
C	0	4
D	0.4	20
E	0	0
F	0.2	2
G	0	0
H	0	0
I	0	4
J	0	2
K	2	0
L	0	0
M	0	0
平均	0.2	2.6

#### 4 防除上注意すべき事項

##### <炭疽病>

- (1) ビニル被覆後から発病が増加するので、発病株は周囲の土ごと掘り取り、ほ場外へ持ち出し処分する。なお、株の残渣が残っていると補植した株も発病する可能性が高いので、残渣を残さないように掘り取る。
- (2) ハウス内の排水を図り、多湿にならないようにする。
- (3) 定植株での発病が多い場合は、次年度親株用苗も感染している可能性が高い。ビニル被覆後に発生する秋ランナーから親株用の苗を採るなど、健全な親株用苗の確保に努める。

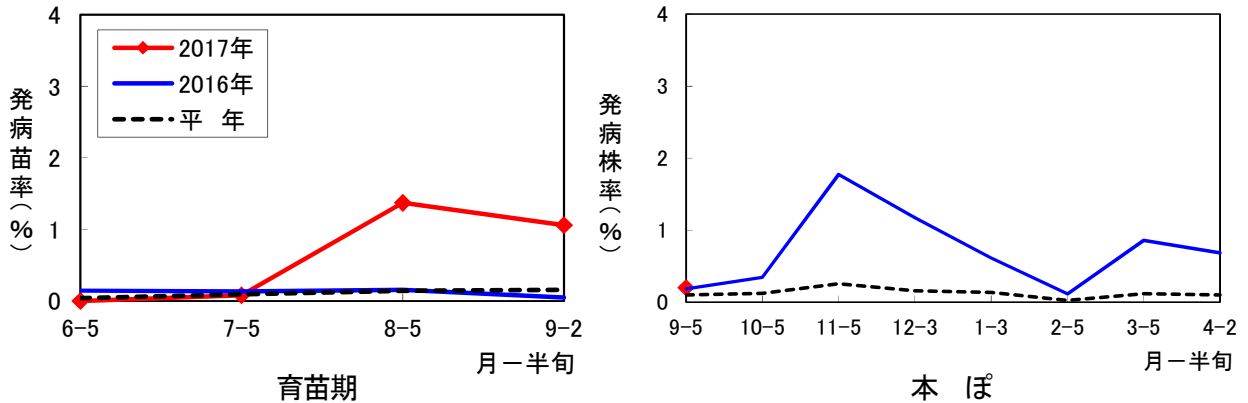


図1 予察調査における炭疽病の発生推移



写真1 炭疽病による萎凋株

##### <ハダニ類>

- (1) 本ほでは、定植時に発生量が少ない場合でも、ビニル被覆後に多発しやすい。多発後は防除が困難になるので、被覆までの防除を徹底し、初期密度を低下させる。
- (2) 薬剤感受性が低下しているため、気門封鎖剤も利用し、同一系統薬剤の連用は避ける。  
また、ハダニ類に登録のある薬剤の多くは浸透移行性が乏しいため、葉裏に薬液が十分付着するよう防除を行う。マルチ被覆の際の摘葉後に、防除を行うと効果的である。
- (3) 天敵を利用する場合は、天敵類への影響が長い有機リン系、カーバメート系、合成ピレスロイド系、ピラズール系の薬剤は使用しない。
- (4) 親株用の苗や補植用の余り苗についても防除を怠らない。

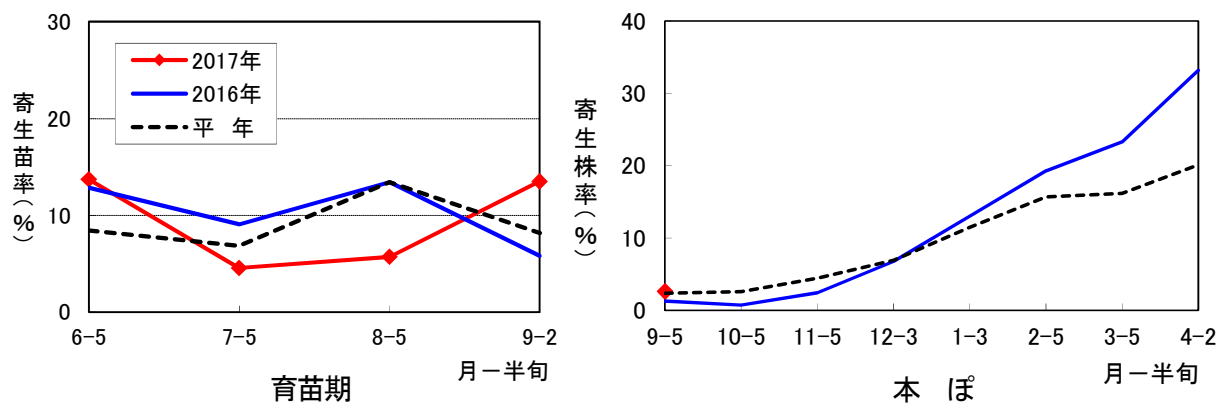


図2 予察調査におけるハダニ類の発生推移



写真2 葉裏に多数寄生したナミハダニ

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

